



青き楓

島高だより
令和元年 12月号
(通巻第 165号)
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から

温故知新

校長 渡邊 孝経

県高校総体壮行式や体育祭のフィナーレを飾るサークル活動など、さまざまな学校行事のたびに歌われるのが、「島高節」である。「水清き島原に～」で始まる島高節は100周年記念誌「100年のあゆみ」によると、応援部が結成された昭和41年に誕生している。福岡大応援団の「福大節」を参考に、阿比留氏、松村氏、蒲池氏、吉田氏ら初代の応援部員が共同作詞して出来上がったもののだそう。その4番の「島原歩けばひときわ目立つツートンカラーの建物は～」のツートンカラーは何処のことをいっているのかと、ずっと気になっていたが、「100年のあゆみ」によると、昭和41年の校舎本館の中庭に面した窓枠工事の際、塗り直した色が明るくなりツートンカラーになったそうである。

さて、これ以外にも校内を散策すると、今の島高生と昔を繋ぐ、さまざまなものがあることに気づく。「伸びゆく少年の像」(…右写真①)

昭和39年11月25日、開校記念日とあわせて木下教諭が制作したそうで、島中22回生の協力で作られ、未完成な少年の伸びる姿を象徴するものである。時代ごとに「〇〇先生がモデル」と変わっていくのが面白い。

「島原高校の門標」(…右写真②)

正面入り口の門柱に「長崎県立島原高等学校」と刻まれた大理石の門標がつけられている(横書きで、右側から書かれてある)。これは昭和23年の学制改革で新たにスタートする時に初代国武忠夫校長が腕をふるって揮毫したものだそうである。

「深淵大澤」(…右写真③)

図書館に掲げられている書であるが、中国の書家の楊草仙という人が昭和3年頃、島原中学に來られて書かれたものであり、90歳頃に書かれたそうである。この文句は中国の古典の「春秋左氏」に「深山大澤生龍蛇」とあるのに寄ったものと思われる、「100年の歩み」の中で豊増大吉郎先生が述べられている。島中は龍蛇にも比すべき偉大な人物が輩出する深淵大澤の環境であるという意味を含ませたのだろうとも述べられている。

「体育祭開会式時の炬火トーチ」

現在体育祭の開会式で使用しているトーチは、1964年東京オリンピック時の聖火ランナーが使ったものである。オリンピックで採火され、アジア地域12カ国を経て沖縄に到着、その後4コースに分かれてリレーし、島原を当時の島高生が聖火ランナーとして使ったものである。ちなみに数年前テレビ番組「なんでも鑑定団」で、どこかで使われた同じものが鑑定依頼され100万円の評価を受けていた。

なぜ、今回こうしたものに触れたかという、創立120周年を前に、あらためて島高の長い歴史、つまり伝統を知ってもらいたかったからである。

歴史(伝統)を知ることは、現代を考える時、そして未来を考える時に重要であると思う。まさに温故知新(おんこ ちしん)、「故きを温ね、新しきを知る(ふるきをたずね あたらしきをしる)」ことであり、過去を研究して、新しい知識をもつことの大切さは、120周年に向けてのキャッチフレーズ「前へ！新時代の旗手～誇り高き伝統、さらなる飛躍～」にも込めてある。

さらに、先輩から後輩に受け継がれる校是「文武両道」・「質実剛健」・「学究的で礼節を尊ぶ」に代表される校風の継承こそが、一番の伝統であることを忘れてはならない。

一人ひとりが、歴史(伝統)に思いを馳せ、新たな思いで、新年(120周年祈念式典の年)を迎えることを祈っている。



①「伸びゆく少年の像」



②「島原高校の門標」



③「深淵大澤」

主な部活動実績等

剣道部

令和元年度長崎県高等学校新人体育大会

- 男子団体 第2位
- 男子個人 第2位 井上 陽向
- 女子団体 優勝
- 女子個人 優勝 岩本 瑚々

第8回高山市長旗争奪全国高等学校選抜剣道大会(岐阜県高山市)

- 男子団体 第3位
- 女子団体 優勝(4連覇)

第8回登龍杯争奪全国高等学校選抜剣道大会(福島県白河市)

- 男子団体 第3位
- 女子団体 第3位

弓道部

第38回全国高等学校弓道選抜長崎県予選会

- 男子団体 第2位
- 男子個人 第2位 上田 晃蒼
- 女子個人 優勝 池田 莉望

バスケットボール部

令和元年度中地区バスケットボール新人大会

- 女子の部 第2位



3年生進路検討会、1・2年生学力検討会

進路指導部主任
本多 敏高

11月から12月にかけて各学年とも検討会を実施しました。それぞれの学年において、学年全体および一人ひとりの学力や生活面の現状分析、今後の指導方針について話し合いました。各学年の内容の一部をお知らせします。

【3年生】三者面談で志望校を確認する。私立大学は、将来の目標や大学の研究内容をもとに受験候補大学を考える。国公立大学は、センター試験から個別大学への出願までの期間が短いので、受験候補大学を幅広く考え、募集要項など準備する。

【2年生】これまでの模試は、非常に厳しい結果である。そこで、授業改善や課題の出し方など今まで以上の改善を行うので、覚悟を決めて授業に取り組んでもらいたい。

【1年生】夏の模試からの伸びが小さい。フォーサイトを利用した日々の振り返りを継続することで、自主的に学習に取り組む姿勢を身に着ける。

1月の主な行事予定

- 4日(土) センタープレテスト(3年～5日)
- 6日(月) 冬季補習(全学年～7日)
- 8日(水) 始業式・校内実力(1・2年～9日)
- 10日(金) 早朝補習再開(全学年)
- 11日(土) 土曜講座
- 17日(金) 大学入試センター試験出陣式
- 18日(土) 大学入試センター試験(～19日)
- 18日(土) 進研実力テスト(1・2年)
※2年のみ～19日
- 20日(月) センター試験自己採点(3年)
早朝補習中断(～3/1)
- 21日(火) 特別編成授業開始(3年)
- 24日(金) 英語検定(一次)
- 28日(火) マラソン大会
※PTA 炊き出し



2年生修学旅行

第2学年 小森 貴



2年生の修学旅行は、12月3日(火)～6日(金)の3泊4日で東京を訪れました。皇居外苑散策、東京湾貸切クルーズ、企業研修や東京都内班別研修と、東京を満喫しながら主体的に様々な研修を行うことができました。大都会の人混みに揉まれ、立ち並ぶ高層ビル群に圧倒され、東京にしかない文化施設に触れ、生徒たちにとって大いに感性を刺激された4日間となり、貴重な経験を積むことができました。保護者の皆様をはじめ修学旅行に関わって下さった皆様に感謝申し上げます。

今後、いよいよ受験の年を迎えます。この修学旅行の経験を活かして、進路実現に向けて学習に励んで欲しいと思います。



上野動物園



浅草寺での記念写真



企業研修

【生徒感想】

- この4日間で色々なことを体験し、たくさんのことを学んだ。企業研修では社会の厳しさや仕事をするためのやりがいなどを教わった。自分が社会に出たときにとっても参考になる話だった。こんな楽しい修学旅行を企画してくださった先生方や旅行者の方々、そして費用を出してくれた家族に感謝しなければならない。この経験を今後の生活の糧にしたい。
- 修学旅行はすごく楽しくて、4日間があっという間だった。最も将来にプラスになると感じたのは、JICAの企業研修である。将来働いてみたいと思っていた所だったので、ジェンダーの平等についてのJICAの取り組みなど色々な話を聞いて嬉しかった。大変な仕事だけど、直接人の役に立てて、世界を舞台に活躍できる仕事でやりがいがあると思った。

「歳末助け合い募金運動」ご協力ありがとうございました!

12月9日(月)～13日(金)に「歳末たすけあい募金運動」を実施しました。校内での募金活動と並行して、9日(月)および10日(火)には、エレナ島原店およびウィルビー店頭で、有志の生徒が街頭募金活動を行いました。

生徒のみならず、保護者の皆さまをはじめ、多くの方々のご協力により、募金額は下記の通りとなりました。

みなさま方が寄付してくださった募金は、本年度の文化祭での売上金と合わせて、ユニセフ・赤い羽根募金・歳末たすけあい募金に寄付いたします。温かいご協力、ありがとうございました。

集計結果 (街頭+校内) ... 134,820円

生徒会指導部



一年生東京研修旅行

進路指導部主任 本多 敏高

12月7日(土)8日(日)の2日間、1年生3名で東京研修に行ってきました。

1日目は明治大学・東京大学を訪問・散策しました。明治大学の外観は普通のビルで、都会の大学の雰囲気に触れることができました。東京大学ではキャンパスツアーに参加し、東大生のユーモアあふれる説明を聞きながら大学内の名所を回り、東大への憧れを抱くとともに刺激を受けました。夜は、島高卒の現役東大生・院生の金井君・勝井君を交えて懇談会を開きました。学力を伸ばすための具体的な学習方法、モチベーションの保ち方、大学での研究内容、学ぶことの意味など、様々な話題について語り合い、2時間半があっという間に過ぎました。

2日目は早稲田大学・慶應大学を回りました。大学ごとに特徴があり、都会にありながら別世界に入り込んだようなキャンパスに圧倒されました。途中、皇居や将門塚を見学し、日本一のビジネス街では大学の先にある目標を改めて思い出しました。

関東同窓会会長の勝又様には詳細なスケジュール案を作成していただき、2日間ともご同行いただきました。おかげさまで、スムーズで有意義な研修となりました。ありがとうございました。

●税に関する作文 表彰式

12月3日(火)本校校長室にて、税に関する作文の表彰式が行われました。本校では、例年1年生の夏休みの課題として応募しており、今年度も183部を応募しました。選考の結果、半島内751部の応募の中から、以下の5名が賞をいただきました。



- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1年1組 野口 哲平「我々と税」 | 島原税務署長賞 |
| 1年4組 大場 凜 「私が持った税に関する素朴な疑問」 | 島原税務弘報協議会 会長賞 |
| 1年1組 林田 千裕「共生できる社会を目指して」 | 島原税務弘報協議会 優秀賞 |
| 1年2組 宮崎 南莉「たばこ税と日本の政治について」 | 島原税務弘報協議会 優秀賞 |
| 1年2組 藤村 美佑「消費税について考えること」 | 島原税務弘報協議会 優秀賞 |

今回の作文応募は、私たちが生きる社会に対して自らの意見を述べる貴重な機会となりました。

これをひとつの契機として、自らの考えをもち、はっきりと意見を主張できる社会人となれるよう、積極的に活動していきたいと思っております。

★「マラソン大会」炊き出し協力をお願い

教務部 中村 敏広

1月28日(火)に行われる「マラソン大会」にあわせて、今年度もPTAによる炊き出しを実施することになりました。詳細につきましては、案内プリントを配付いたしますので、そちらでご確認ください。多くの保護者の皆様の参加をお待ちしております。

